公開シンポジウム「農業環境工学における環境教育と人材育成」

- 1 主 催：日本学術会議農業生産環境工学分科会
- 2 後援(予定)：農林水産省、日本農業気象学会、農業農村工学会、日本生物環境工学会、農業施設学会、農村環境整備センター、国土交通省
- 3 日 時：平成20年5月8日(木) 13:30~16:30
- 4 場 所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨

環境教育の基礎は、「自然に親しむ」、「自然を知る」、「自然を守る」であるといわれており、到達点はライフスタイルを見直し、自然と共生する実践する力を身につけさせることである。農業生産環境工学分野は、人間の生命に必要な食料を供給するとともに、生物との共生を図る重要なフィールドの提供の場である。農業生産現場のフィールドは、人間の存在を自然、環境、生態系、生産社会の係わり合いの中で総合的にとらえることが出来、持続可能で循環型の社会を実現する能力を習得させ、それに向かって努力する過程の大事さを考えさせる学習の場となる。

本シンポジウムでは、フィールドを使った体験学習や実験・実習の場としての活用を通じて基礎知識を学ぶだけでなく、実感として環境をとらえて行動する能力(=人間力)を身につけさせることに関して議論する。実社会との接点をもつことにより、人間と社会の変革並びに自然環境の保全に寄与する価値観や行動力を養うことができる。その結果、環境持続性と社会的公正を地球規模で実現するために調和・協調主義の必要性を自ら考えることが出来る能力を身につけ、自分の専門分野の再認識、職業人となる自覚、自己のアイデンティティの確立がなされ、市民の人間力の向上が達成される方策などについても議論する。

6 プログラム

13:30~13:35

開催挨拶 真木 太一(琉球大学農学部教授、日本学術会議会員、
農業生産環境工学分科会委員長)

13:35~13:40

趣旨説明 早川 誠而(元山口大学教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会委員)

講演

13:40~14:10

- 1) 地球環境問題と農業農村工学分野 —なぜ今農業農村工学分野の環境教育か
大串 和紀(社団法人農村環境整備センター専務理事)

14:10~14:40

- 2) まちづくり・環境保全運動の教育力
柿澤 宏昭(北海道大学大学院農学研究院教授)

14:40~15:10

- 3) 農地・水・環境保全向上対策を通じた農村地域の活性化
雑賀 幸哉(農林水産省農村振興局農地整備課長)

15:10～15:20 休憩

15:20～15:50

4) 農業環境倫理と環境制御型農業

高辻 正基（東京農業大学客員教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会委員）

15:50～16:20

5) 農業環境工学分野における環境教育による人材育成事業

早川 誠而（元山口大学教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会委員）

16:20～16:30

総括および閉会挨拶 早川 誠而（元山口大学教授、日本学術会議連携会員、
農業生産環境工学分科会委員）

【参加申込方法】

当日直接会場にお越し下さい。事前登録は不要です。

*定員（300名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

問い合わせ先：早川 誠而 元山口大学教授

メールアドレス hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp